

新約
聖書

哥林多前書

02-SHI

海老澤文庫

耶穌降生二千八百七十八年

翻譯委員社中
米國聖書會社

新約 聖書 哥林多前書

明治十一年

日本橫濱上梓

使徒パウロコリント人におくれる前書

第一章 神その旨によりて 耶穌キリストの使徒となり

たるパウロおよび兄弟ソステネ

ある神にけうくわいをもあはちキリスト 耶穌はあまのきよ

められめされと聖徒となれるをのおよびうれらのところ

にもこれらのところも 諸處にあのきよれらの主の

キリストの名にふりのまをくおく

くそわをらの父ある神および主の

と平康にうけよ

のめぐみよついでにキリストはありてなんぢらに

新約全書 哥林多前書第一章 自一至十節

よわがわみよ感謝かんしゃを五 そのなんぢらにわれよありて諸事しよじに
あつちよぶての教訓きょうくんとよぶての知識ちしきよとむとて我えされ
ばあり六 これキリストの證あかしなんぢらのうちよわさうせら
ましよとゆる七 あくくなんぢらよたまさきとゆるは恩賜めぐみ
いにくることなくされらの主しゆに返かへルキリストのあらわれん
こと我まてを八 神かみのたまをまをなんぢらに堅かたくされらの
主しゆに返かへルキリストの日ひよおいそなんぢらよ責とがなうらよむ
九 それわみよ誠信まことなるを。われなんぢらよ召よくその子こされらに主しゆ
に返かへルキリストの交際まじりよいらあめさるる○十 きやうど
いよわれらの主しゆに返かへルキリストの名なよよりくられなんぢ

らよまらむ。なんぢらよみお言いひをおなとらよ且かつわうまことな
く心こころ我おなとらよ意い我おなとらよて聯合いっしょべし十一 それお
がきやうどいよクロエの家人かんのいなんぢらのこと我よれよつげ
くなんぢらのうちよあらをひあうとりひこればあり十二 あ
んぢらおめくられハパウロパウロされをアポロアポロされをケパケパわれ
をキリストよ属ぞくはといふ。されられをいふなり十三 キリスト
まあまらよわらまものあらんやパウロパウロをなんぢらのよめ
よ十字架とがごころよつけられよ。まらなんぢらよバプテスマバプテスマ我う
けくパウロパウロの名なよいアアーアや十四 それわみよ謝あやまをされハキリス
ポとガヨスのわらなんぢらのうちひとまらまらバプテスマ

をわびとあせしむることなり^{十五} このわび名によりてバプテスマ
をわびとけと人よいひしむれんこと我おそれなきをあり^{十六} され
まことステパナ^{リクツメ}が家族よバプテスマ我をどこせむ。このほら
まほこれ人よバプテスマ我をどこせしむとあるや否我^{いなや}
らば^{十七} キリストのまれをつのいせしはバプテスマ我をど
こさせんらぬまあらば福音我のべつこへしめんらぬなり
まことわれまことばの智慧我もちかぬしめらぬらば。こそキリ
ストの十字架^{トコト}のむちかくならざらんらぬなり^{十八} され十字
架のせしへいあらざるものまこと愚なるもの。されらまこと
まことりのよい神の能たるなり^{十九} 是なるち録てられちしや

の智我ほらば^{二十} まこときもの智慧我もたぬし^{二十一} せんとあるが
ら^{二十二} 智者^{チヤ}らばくまある學者^{ガクヤ}らばくまあるこの世の論^{エン}
者^{シヤ}いづくまある神^{カミ}のこのよの智慧我^チまあるあらしむ
るまあらば^{二十三} 世人^{ヒト}のこのよのち我^チまあるのみ神^{カミ}を志
らば。こそ我^チの智慧^チまあるなるなりこのゆゑまのみ傳^{デン}
道^{ミチ}のおろらある我もて信^{シン}はるもの我まこと我よしとせり
三 ユダヤ^{ユダヤ}びとの休徴^{キウテウ}我^チのギリシヤ^{ギリシヤ}びとの智慧^チまもむ^{三三}
それら^{トコト}の十字架^{トコト}まつけられしキリスト^{キリスト}のべつこ^{キリスト}
ねいユダヤ^{ユダヤ}びとのいづまづものギリシヤ^{ギリシヤ}びとのいおろ
うあるものなり^{三四} されと召^{メカ}れらるものよのユダヤ^{ユダヤ}びと

もギリシヤびとももキリストのうみの大能まゝ神のちよ
なり五それ神のおろのひとよりも智かみのよわき人
よりもつよ六兄弟よめー茂うらむれるあんぢらをみよ
肉よよれるちよあるものおやうら能者おほうら貴者
おやうらざるなり七あみの智者をさづうーめんとして世の
おろうなるもの残えらび強者をさづうーめんとして世のよ
わきもの残えらぶ八まゝと神まあるものをあろがさんとて
よの賤者うろーめらるものまあゆち無がごときもの残え
らびとまへ九あれまべての人かみのまへは誇ことなる
らん十あめあり十一なんぢらの神ははうてキリスト 耶穌よあ

り。のほびの神よとてられてなんぢらの智慧まゝと義まゝと聖
まゝとあがなひとなりとぬ十二あうとくわするものさ主
よようてやうるべとあるがごとく

第二章

きやうごいのよ我さきよあんぢらよいらまゝとま

こととと智慧のまぐまぐるをもてなんぢらよ神のあつ
たつこへざうき二そのよれ耶穌キリストとこれの十字架
よづけられーことの外なんぢらのうちよあまゝなよ茂
もしるまゝと意茂さゝめとまばなり三これあんぢらとと
もよちうーとまゝの弱のつ懼まゝとあゆくをたけけ四わが
いひーとまゝとわが宜ーところの人のちよの婉言茂も

ちかびとて 靈たまと能ちからのあつて 我われもちかたなり 五
の信仰しんきう我われてひとのちかたよらば 神かみのちうらよらば 一
んとおもへむあり 六 若もうれどもわれら 全まことものけうちよ 智ち
慧まをかへる。これこの世よのちかたよあらば 七 我われらのおくると
ころをのくきとて 神かみの奥義おくぎのちかたあり。この創世まのつくのさき
より 神かみのあらうドめわきらちうて 榮さかをえせしめんがため
よきとめさきひしものなり 八 この世よのつひさよこれ 我われま
るをの一人ひとりもたうし。もしあらば さうえの主しゆ 我われおふとらよつ
けざるしあらん 九 若もし 神かみのおのれ 我われ愛あいひるもの比ひと

めよそをくしうひしものへ目めのまごみ 耳みみのまごき 心こゝろ
人のこゝろのまごおもさるるものなまごとあるがごとし 十
されと 神かみへその靈たまをもちて 我われられらよは 我われを 靈たまの
まごてのこゝろ 我われたがねあり。まご 神かみのあつて 我われもしう
移うつしうなり 十一 若もし 人ひとのこゝろのちよある 靈たまのちうらよ
されうとて 我われあらんや。のくのごとく 神かみのこゝろの 靈たま
のちよあるものなり 十二 われらのうけしんごのよの 靈たま
あらば 神かみよりいづる 靈たまなり。これ 我われのまごわれらよしうひし
ところのものを 我われあるべきとめなり 十三 若もし 我われらこの事こと 我われ
のこゝろよ 人ひとのちかたのちうありとて 我われの言ことば 我われもちかた 聖靈せいれい

のせしめあるところのこととをわきまあはるなり。またまた霊の
ことば残れどもみづからのこととあつるなり。十四 うまれつきの
まゝあるひとの神のみこころの残るけは。これわれよハ
愚あるものとみゆればなり。まゝこれ残あることあり。げ
その霊のことのみこころよりてわきまあはるべきものあるが
ゆゑなり。十五 されど霊よつけるものへまゝてのことと残るま
まゝある而上をわきまあはるはわきまあはるることあり
誰の考ゆればなり。十六 誰の考ゆればなり。主残るものあらんや。さ
れとわれらハキリストのころ残れども

第三章

兄弟よりわれらにまゝなるならんや。まゝなることあり。まゝなることあり。まゝなることあり。

一 属するものよわらざるがごとく。あはるをわきまあはる肉よつけ
るもの。これよりまゝキリストよつける赤子よつけるごとく
せむ。二 これなんぢらハ乳娘のまゝめてわきまあはるもの残ある
へざりき。なんぢら食ことあはるまゝればなり。今もあはる
つげ。三 そのなんぢらなる肉よつけるものなればなり。なん
ぢらのうちハ嫉妬と分争あり。こゝになんぢらにこゝよつき
人のごとくおこあふ。あはらばや。四 これハパウロよつき我ハ
アポロよつきとしふものなればなり。これなんぢら肉よつけ
るならばや。五 パウロよつきアポロよつき誰われらハおの
よつきあはるものよわらざるあはるんぢらに信ぜしめん

とてつとむるものなるのちのたう六 さきばりれいうるア
 ポロも灌みをうつるものいいう七 神カミなり七 うゝるものみづを
 ぐものもあぞあるよらびとたふときハそごつると
 ところの神カミなり八 それ種者こゝろものもみづをくもものもくもあつこ
 となりおのくエイはあごダひてその賞はくしたうべ九 されら
 神カミとちよちさらくものあり。なんぢらへ神カミのちをけあみ
 の室ムあり十 神カミのされよとまひーめぐみよあごダひくこれ
 かしこき江師カミのふとくまをよ基礎イシをあつう。いまやこの
 人ヒトそのうへは建たいよそのうへよとらべきのかのくアキ
 ちべー十一 その置おとひひーいーは糸の布ヌのよされも基礎イシ

ちうることあごはざればなり。このいーは糸ハちかち耶イ
 穌キキリスト十二 ちひとこのいーは糸のうへよ金銀寶カネギン
 石木州禾稿セキキちもてとてなバ十三 おのくのわぎのあきららち
 らん。この日ヒあれ城シあらひべければなり。これハ火ヒを
 らいれん。その火ヒおのくのわぎ如何いかん残のこるむべー十四 ち
 しそのとつるところの工クたもさむくい残のこえ十五 ちその
 ちぎやうをち損とんちうくざれとおのれハ火ヒよりのざれい
 づちとくつひよんちくハキ十六 ちなんぢらハ神カミのみやよ
 してかその靈ミちらぬらちよいまはこと残のこらざる十七
 ち人ヒトかみのみや城シちがくち神カミかれちあはらん。ちか

この殿みやへきよきものあれむなりまよ即ちあんぢらあり十八たれ
もみづくらあぢむくなり。もしなんぢらのうちよこの世よ
はおのこ智慧ちゑありとおもふものあらば智者ちゑとあらんとめよ
おろよよありべ十九そいこのよのち急そ神かみのまよいお
ろうなればなり。あるしていぢく神かみをちりや我われそのみづら
らの詭計たぐみよよりてとらふ二十まよいぢく主しゅはちりやのおも
ひ我われむたよりきものと急そとらふ二十一さればとれもひとよや
ころなうれ萬物かたもなんぢらのものなり二十二あるひハパウロ
あるひとアポロあるひハケバあるひハ世界せかいあるひハ生せいお
るひハ死しあるひハいのまのものあるひハいのちのもの是れ是これみかた

んぢらのものなり二十三なんぢらのキリストキリストはかのキリスト
ハ神かみはものなり

第四章 人ひとよろしくこれら我われキリストの役者つとむびとのごとく神かみの

おくぎ我われつうさごる家宰しやくさいのごとくおもふべ二十四まよこの世よ
よありまよいつつさよ求もとむるところハその忠信ちゆうしんならんこと
あり二十五これなんぢらよまよつられあるひハ人ひとよまよつらるる
こと二十六をちひさきこと二十七なれもみづくら我われ評ひやうび二十八マ
れみづくら省かへよあやまちあるを二十九おぼえん。あるれどもこれ
よよりて義ぎとせられん三十れをさぐるもの三十一を主しゅあり三十二され
ば主しゅのまよらん三十三ときまで時ときのまよらるるうらみの審判しんぱん

はるなるれ主しゆのくらきよありこのくきつることをてらし心
のちりりごとをあらひさん。そのときおのく神かみよりやまれ
たうべし六 兄弟あなごよきあるんぢらけつめよこれらのこ
と我われをそとアポロよなぞらんこつ此このそれらのことよよ
りあるんぢらをして録ろくされしところよはきとひと我われ思議かぎべ
このらざるごと我われまなぶせ。うれよあこづりんとしてこそよさ
からひおめく誇ほこることなるらしめんごめあり七 あるんぢ我われ
ごひとよ異ことあらしむるもはきとれぞなんぢをあたにのをら
はざるもの我われもつこの。もしこそ我われもらわらふあにぞ受領うけうりざる
ごごとくやらんや八 なんぢらまをばは飽あきあるんぢらばをよとめ

て。あるんぢらわきと世よもあらばし王わうごり。これ實じつよなんぢ
がわらうらんこと我願わがまをいられもなんぢらとともよ王わう
らんごごめあり九 それおめふよ神かみのそれら使徒しと我死われしよさ
ごめらましものけごとく赤あかのものめとくあらましごめへ
ま。そのころらん宇宙うちうのものまあはち天てんのつうひおよびひ
とぐし観玩くわんわんよせられられむなり十 それらんキリストはご
めよおちかあるものとなを爾儕なんざらのキリストよありきさ
ときものとおれま。それらんよわくあるんぢらに強つよあるんぢら
いたふとくそれらん賤いやし士しりまはときよいらるまをそれら
ハ飢うままご渴かわまご裸はだかまごうこれ斯かくでさごまされるまをみごめく

十二 ちねをさきく手づうら工我なり罵らるるときに祝しせめ
らうるときに忍しのぶ十三 そらうるときに勸すすをせり。これら
まよひつるまご世乃あくしまさよろづれもの塵垢ちり比こ
と十四 我あんぢら我ちづうめんよめよこれ我書てよあら
はうへつきわが愛あいはる子どものごとくなんぢら我い倣まねんと
くあり十五 なんぢらキリストよありくうとひ師しを一萬いちまんあを
ともちひあやくあることあり。そのこれキリストいひん
よありて福音きんをもくあんぢら我生うをあり十六 このゆゑよこ
れあんぢらごこれよ效こうんごと我わをむるなを十七 これよ
りまごが愛あい子こをゆよありく忠ちゅうなる。テモ、テ我わわれあんぢら

よつうのせり彼かれのヨケキリストよありてぢりあるところろ
をわつちあまねく教會けうかいごとよぢりある模範もはん我あんぢら
よおやえさるべし十八 あんぢらのうちされ我あんぢらよい
うらばとしとみづうらほらるりのあを十九 されど主しゅのら
ろよかちをら我われをみやうよあんぢらよいけりやうらもの
此こその言ことよあらばそれ能あた我あらん中ちゅうに二十 その神國かみのくにを
むよあるよあらばちうらよあれをあや二 あんぢらなよ我
我われがあや答こたをゆくことあんぢらよいけりくこと我我われがあ
ちく愛あいと柔和よくわのらる我わきりけりくこと我我われがあ
第五章 あんぢらのうちよ我淫かえりんあをとつねよまきまゆ。そのか

んいんいとうじんの異邦人のうちよもあらざるほどのことよて人そ
のちくの妻つま成もつときこゆ 二 あんぢらほころう斯かること成
おこあひしも成のあんぢらのうちよりあるまをけられんこ
と成移うつびきなげかざるの 三 われ身みをなんぢらのうちよ
をらんとしんども靈れいをきりて居ゐるごとくきでよこれ
成おとあひしもの此罪つみをさぐるめらり 四五 まなすあわきらの
主しゅりてんキリストの名なよようそなんぢらのあつたらん
ときわが靈れいもともよありそわきら此主しゅりてんキリ
ストのうちらよよりあくのごときまもの成サタナはわきり
その肉く成せいほろぼしその靈れい成せいし主しゅりてんの日ひよけくひ

成えせしめんときさめぐるあり 六 あんぢらのほころひよ
ぞうらんとまきりのパンどねその全團かんとん成せいまふくらん成
あらざるの 七 なんぢらの麴か酵じょうあまがごときものあればふ
るきパンどね成除のぞくあさうきわこまりとあるべしそれ
われらの逾越やうえつまふあちキリストのまてよほふられし
しをへさればわれらあるまきパンどね成もちあひまはる悪あく
毒どくと暴根ぼうこんのパンどね成もちあひん真實しんじつと至誠しじつあつたねなき
パン成もちあひ節成せつせいまゆるべし 〇 九 これあんぢらよ姦淫かんいん
をとおあふものともよまどちるあうれと既すでようきおく
れを 十 されどこの世よの淫成いんせいおこあふものまはる貪婪くわんぼんの

まことの勅索ちくさくものまことの偶像ぐわうざうをどつむものときどちること残
まつて禁きんずるものあらば。もしあらば。なんぢらの世よ残
ちたれざるべうらば。士し。もしなんぢらよ書くみあくる。いさや
うづいと坐またふもの。もし淫ん残あこなひまうへむさざり
まうらひぐらうらう残拜まがらひまうらひ。沈しみ酒いしゆまうらひ。う
ぢふことむせがられ。ともよま。す。りることあ。斯うるもの。と
ともよ食くひること。よせ。うら。めん。と。く。あり。外そとよある
もの。残のこさ。う。く。こと。い。あり。ぞ。われ。よ。あ。ぐ。う。らん。なんぢら。が
審判さんぱんと。ころ。い。うち。のもの。よ。あら。ば。也なり。十三。そ。と。よ。ある。もの。い
神かみられ。残のこさ。う。く。か。く。る。あ。し。き。人ひと。い。こ。も。ぢ。なんぢら。の。うち

よりの黙もくべー

第六章 なんぢらのうちと。び。ひ。は。事ことある。とき。聖徒せいとの。ま。へ。よ。

ぢ。ら。と。ある。こと。残のこせ。ば。敢あて。た。ぶ。ー。う。ら。ざ。る。もの。此こゝま。へ。よ。
証あかしすること。残のこひ。る。もの。ある。あ。二。なんぢら。せい。い。この。世よ。残のこさ。を。
う。ん。と。ひ。る。残のこあ。ら。ざ。らん。や。世よ。も。ー。なんぢら。よ。さ。を。う。る。こ。
た。ら。ば。なんぢら。至いたる。ち。ひ。さ。き。こと。残のこさ。を。く。よ。う。ら。ざ。る。もの。
の。なんぢら。や。三。なんぢら。われ。ら。が。天使てんしのつみ。残のこさ。を。う。ん。と。ひ。る。を。
あ。ら。ざ。らん。や。況いはんや。こ。れ。よ。の。こ。も。残のこや。四。この。ゆ。ゑ。よ。なんぢ
ら。も。ー。この。世よ。の。こ。も。残のこさ。を。う。ん。と。せ。ば。教け會かいの。うち。ま。う。い
や。し。き。もの。残のこさ。を。う。ら。の。座ざ。よ。ま。わ。ら。ー。ぬ。よ。五。これ。なんぢら

我ちづゝのーめんときくらのへま。あんぢらのうちよそのき
やうぶのあひごめこと我ちをきうる智者ひとすもあこの
らんや^六 さきと兄弟ときやうぶのあひらつとくうのこの
こと我^{不信者}のまへまうくあせり^七 あんぢらこづひは相訟
るよよりあんぢらのうちまことよ過^{あり}なんぢら何ぞこ
そよりもむしろ不義^我うけざるや何ぞこれよりも寧^{あざ}
むき我^うけざるや^八 噫^ああんぢらあぎをあーあぎむきをあん
兄弟^ももまこと我^なせり^九 あんぢらたごーうらざるも
の^{神國}我^つぐこと我^えざる我^らざるも。あんぢらみづ
うら欺^あれまべて淫^あ我^あこあひまごの偶像^あをづみま

このうんりん我^なりまごの男娼^{あり}とありまごの男色^我あこ
あひ^十まごの盗竊^まごを貪婪^まごのさけよよひしづみま
ごの辱罵^まごのうぢあものなごのみあ神^のくも我^つぐこ
と我^えざるあり^{十一} あんぢらのうち前^ののうくのぶときも
のありーごども主^ののなごのよりうのそれらの神^{のみ}
ごのよよりて洗滌^まごのきよまりまごの義^とあるごを^得た
り^{十二} まべてのもの我^よよりうらざるなご。されどまべて益^と
あるよあらぬ。まべてのものこれよよりうらざるあり。されど
それその一^もご主^とたご^{十三} 食^をごらのごの腹^をごよ
くのごめあご。されど神^のこれもうれもほろほごべー身^を

淫リをとおこちあつうめはあらば主しゆのこめあつう主しゆとまゝと身みのよ
めあり 神かみをこゝ主しゆはよみぐくせうゆふ。まゝその能力ちから
をよてこをら然しかもよみぐへらんべー 神かみちらの身みハキ
リストの肢あそあるをあらざるう。これキリストのえごは娼妓あまひめ
のえごとあーううらんや。あつうらざるなう 十六 あそびめ
は合あはものいられとひとつのうらごとある城しろーらざるう。そ
へあつうのもの一いつ身みとなるべーといひさるひされもあつ
十七 主しゆはあふものハ一いつ靈たまとあるあり 十八 なんぢら淫リはさけよ
人のほべておこなふつみを身みのそととある。されどりんを
行わざものハおの身みをさうんあり 十九 なんぢらの身みとなんぢ

らダ神かみよりうけたるなんぢらの衷こころはあるせいれいの殿みやは
一いつをなんぢらハなんぢらのものはあらざることばーらざる
二ふた そのいたなんぢらハ價あひをもつてをささぐるものなればあり
このゆゑは神かみはものあるなんぢら身體みはおいでも靈たま魂たまは
おいても神かみのさあえはあらはらべー

第七章 なんぢら日ひれはよきおくアーとよつうい男おとこの

女おんなはあそざる城しろよりとん 二 あつうれども淫リ行わざはぬうる
はめは人ひとおめくその妻つまはもちせんたのめおのくその夫おとこは
つべー 三 ちつとをその分ぶんはつまはなんべー妻つまハまゝとつと
よあつうのべー 四 つまはみづうらその身みはつこのささぐること

我えん夫これをつゝきさぐる。かくのごとくやつともみづう
らその身我つゝきさぐる。こと我えんつゝきさぐる。五 あひ
ともよこむむたうのれされどごづひよ意我あてせてあむら
く祈禱おめよわのるゝいよー後まことともよ合べー。これ
サタナあんぢらの情のこへざるよ乗ドろあんぢら我いざ
あてざらんごめあり 六 されどごづがこれ我りあ命はるよ
あらば許あり七 されへまべての人此わがごとくならんこ
と我務づふ。されどおのく神よりおのまのこまもの我うけ
ごう此まこれのごとく彼はうまのこごとくハこれりあご婚
姻せざるものおよび妾婦よりまんもーわがごとくーと

らバおれらよあきなり九 もーみづうら制ることあごりん
ごてんりんまもよー。その婚姻はるいむねのもゆるよりも
まごされをあり 十 されごんりんせーものよめいん妻いあ
ともよわのるゝなるまのまの命はるいこれよあらばまあそら
主なるを 十一 もーわのるゝことあらむ嫁をなるこのまごいんら
ともよはらごごご我いべー夫もまごつま我さるべうらん
十二 そのわのの人よわれごまをいふ主のいふよあらば。もー
まごうごご不信あるつまをもてるるとき妻ともよをらんこ
と我務づのぞこれ我さるなるのれ 十三 まごごんな不信あるを
つと我もてるるとき夫ともよをらんことをわがつゝこれ我

さるるたうれ^{十四} そいふしんあるをいつといつはよよりきよ
くあり不信なるつまひをいつとよよりきよ潔なればなり。あ
らばあんぢらの子どもひきようらば。されど今ひきよき
ものなり^{十五} 不信者みづうらはなれさらばそのをあるくよ
まかせよ。あくのときこあらば兄弟あるひて姉妹つ
あづむくところな神の己れら残めーとめくるひこれら
や和睦せらしめんーとめあり^{十六} 妻よなんぢいつと残
はくふこと残うもや否残あらん夫よなんぢいつと残
救こと残らるやいあやなしらん^{十七} されど神のおめくよわ
うらあくるところ。まゝ主のおのく残召ところよーとら

ひまのくのぶとくおこなふべし。これまべての教會よさる
めくるもあくのとき^{十八} 割禮ありきめされくるものひの
つれいをまづるなうれ。うらわいなくしてめされくるもの
ひかつれい残うくるなうれ^{十九} うられり残うくるもなよの
得ことなく割禮残うけざるもなよのらることなり得こと
ろのたゞ神のりまーめ残ももるよあり^{二十} おめくそのめさ
れーときよありーとこちれ分よとらまるべし^二 なんぢ奴
隷よめされなぶおひあづらふをのれ。されともーゆる
さるるごと残得むむしちこれ残うくべし^三 めされ主よ
さるるどれひ主よつける自主あるものなり。かくのごとく

めされし自主のものにキリストのどれいなり二三あんぢら
いあそひをよて買まらるものあり人の奴隷とあるあうれ
二四兄弟よおのくめされしときよあましとところの分よと
まはる神とともによなるべし〇 二五處女のことよつりていわ
れいまご主のめり残うけぬされどされ主のあされみ残の
うむを忠義なるものとなせらればこそがおひひ残述べし
二六いまの災よよりこそこれ婚姻せざるをよりとんかくのこ
とくある人よよりモあんぢ妻よつなぐるものなるを。若
うらべらくこと残もとむるあうれなんぢつまの繋なきも
のなるを。あうらばつまをもとむるあうれ 二八爾も一めたる

ともつみ残犯よあらぬ。をよめも一よめりなれるとも罪を
やうにあらぬ。されどうくのときものいその身あやそよ
あそん。われあんぢら残しとあづらひしむるよ若のびに 二九
兄弟よあまこれいそん今よりのあれときいあがまれを
その妻残もてるものよよざるがごとく 三十哭も残いなり
ざるがごとく喜も残いよろこむざるかごとく買も残あも
たざるがごとく 三一この世残もあかるものい用ざるがごと
くまぶきとめなり。それこのよの形状いまぎゆくあり 三二
れあんぢらがおもひこづらたざるんこと残ねがふ婚姻せ
ざるものいりのよし主残よろこむせんと主のこと残あ

もひつらぐらひ^{三三} こんりんせーものからりのよーと妻^つ女^めよろ
こぢせんと世^よのこゝと残^{のこ}おひつらぐらひ^{三四} つまとなれ
るものと處^{ところ}女^めたるものも此^{こゝ}わのち^ちあり。よめ^{よめ}のま^ませざるもけい
身^みも靈^{たま}もきよらん^{らん}とめ^めの志^しゆのこと^{こと}を^をおもひわぐらひ嫁^{よめ}
せしものいりのよ^よを^をつと^と残^{のこ}よろこぢせんと世^よのこゝと残^{のこ}お
もひわぐらひ^{三五}あり。我^{われ}られ^{られ}を^をのふい^{ふい}あん^{あん}ぢら^{ぢら}残^{のこ}益^{えき}せん^と
め^めを^をう^う。なんぢら^らは^は絆^は残^{のこ}お^おん^んと^とほ^ほる^るは^はあら^らん^んと^となんぢ
ら^ら残^{のこ}一^{いち}理^りは^はこの^{この}あ^あを^をせ^せる^るづ^づの^のひ^ひなく^{なく}残^{のこ}ん^んと^とろ^ろは^は主^{しゅ}よ
つ^つの^のへ^へし^しあん^{あん}と^とき^きなり^{なり}。人^{ひと}も^も一^{いち}その^{その}む^むけ^けめ^めは^は對^{たい}し^しと^とお^おの
が^がお^おこ^こを^をふ^ふこ^こと^とわ^わら^らふ^ふは^はわ^わた^たる^るは^はと^とお^おの^のふ^ふと^とき^き女^{むすめ}と^とき

ま^まぎ^ぎあ^あの^のや^やむ^むこ^こと^と残^{のこ}え^えざる^{ざる}こと^{こと}あら^らば^ばその^{その}こ^ころ^ろは^はま^まり
に^にべ^べい^い。この^{この}罪^{つみ}残^{のこ}を^をの^のけ^けは^はあら^らん^んと^となん^んり^りん^んせ^せさ^さん
べ^べい^い。三^三七^七 され^{され}と^と人^{ひと}も^も一^{いち}その^{その}こ^ころ^ろと^と残^{のこ}わ^わく^く一^{いち}己^{おのれ}残^{のこ}え^えざる^{ざる}こ
ろ^ろも^もた^たく^くま^まる^るこ^こお^おの^のが^が意^いの^のま^まは^はあ^あん^んと^と残^{のこ}え^える^るその^{その}む^むけ
め^め残^{のこ}と^とめ^めお^おの^のん^んと^とろ^ろろ^ろの^のめ^めら^らち^ちは^はさ^さで^でめ^めあ^ある^るけ^ける
ひ^ひよ^よき^きこと^{こと}なり^{なり}。三^三八^八 あ^あの^のこ^この^のぶ^ぶと^とく^くな^なれ^れば^ば嫁^{よめ}せ^せさ^さん^んの^のめ^め
お^おこ^こあ^あひ^ひさ^さよ^よし。され^{され}ど^どよ^よめ^めの^のり^りせ^せさ^させ^せざる^{ざる}もの^{もの}と^とお^おこ^こを^を
ひ^ひの^のさ^さら^らは^はよ^よし。三^三九^九 夫^{おとこ}い^いけ^ける^るち^ちの^のつ^つま^まお^おき^きて^てよ^よつ^つな^なる^る
る^るなり^{なり}。され^{され}ど^どち^ちの^のと^とり^り死^しを^をと^とろ^ろの^のま^まは^はよ^よめ^めの^のま^まり^り
る^るこ^こと^と残^{のこ}ゆ^ゆる^るさ^さる^る。た^たゞ^ゞ主^{しゅ}は^はある^るもの^{もの}よ^よのみ^みゆ^ゆく^くべ^べい^い。四^四 十^十 さ

れどもこれおもふよむんたそのまゝとゞまらなぶくともよさ
いとひなり。われまゝ神のみこゝめは感^んとてなりとおもふ

第八章 偶像カウダウよさげしものよつといはれらみち知識^{チキキ}あ

ること成しる。ちかき人成りてらむ。されどあいの徳を
とらるものなり。二 ちかみづくらよくもの成知とおもふも
のいりまごそのいりるべきやどをもあらざるものあり。三 人
もかみを愛せむこれ神よあられくるなり。四 ぐらぎらよさ
さげしもの成食ひるよつといはれらぐらぎらうの世よな
きものありていり。まゝとひとまの神のほのよむみなまを
五 神ととなあるものありひい天よありあるひい地よあ

りておやくの神おやくの主あるがごとしといはれども六

れらはおやくといはれひとり神をちち父あるのみ。よろ

づのものこれより生あれられは歸^きはまゝとひとまの志ゆ

まあるち耶穌イイススキリストあて萬物マンブツこそよよりわれらもこれ

よよれま七 されどみかうること成あらば今よい

あはるるるは偶像カウダウのいりまこれ成ぐらぎらうまきげ

ものとかもひて食ひるものあり。このゆゑよその心よわく

しけのさるなり。八 神とこれらのかういりて食物よよ

るよあらば。あよくひるもまさることなく志よくせざるもあ

とることあり九 されどあんぢらつていりみまその自由トヨ成りよさ

もの^{つみ}蹟と存^しる^はあれ^十ひと^も一^し知識^{ある}ところのあん
ぢくうぎうの廟^ニぎう^とあ^よく^はる^はみ^バ暗弱^{もの}のころ
ろこれ^はま^とめ^{られ}る^{ころ}ぎう^はま^さく^ば一^の城^あら^く
せざらんや^{十一}ま^とキリスト^はこの^ちり^と死^一よ^わき^{兄弟}あ
んぢのち^しき^よあ^らる^はび^ざらん^や^{十二}この^くの^こと^くあ
んぢ^らき^やう^ごい^は罪^をう^りよ^わき^{ころ}ろ^は傷^をキリ
スト^はつ^み我^をの^はな^を^{十三}これ^ゆゑ^はも^一食物^はが^きや
う^ごい^は我^をづ^うせ^をられ^の兄弟^はつ^まづ^うせ^をら^るゝあ
よ^りつ^まで^も肉^を食^らら^るゝ

第九章 これの使徒^はあら^ばや^とれ^の自主^はあら^ばや^とれ

さわれらの主^はの^まい^にキリスト^は我^み一^はあら^ばや^とあんぢら
が主^はある^のわ^が工^はあら^ばや^二これ^他人^のあ^とは^あ
ら^ばとも^あんぢ^らは^の使徒^{あり}その^なんぢ^らの^主は^あ
この^あと^の職^の印^をられ^ばあり^三この^こと^をく^はも^の
よ^こと^ある^のこれ^{あり}^四これ^ら飲^食食^をら^るけん^あき^や
五^{これ}ら^のあ^との^あら^る主^のま^やう^ごい^とケ^パの
こ^らく^く姉妹^{あり}つ^まを^くづ^さる^権あり^六この^こと^は
バルナバ^は我^をむ^るを^えざ^{らん}や^七これ^の軍^の
で^おの^れの^財を^ひや^はもの^あらん^やこれ^の葡萄^園を
つ^くり^そその^果を^らる^{もの}あ^{らん}や^八これ^の羊^を

ひきそのちり残れまざるものあらんや。され人のことよ
のこりてこれ残れんや。おきてもまゝこのくひふよあら
ばや九 モーセのおきてよ穀物残るべしよ口籠残るべ
うらぶとふるされう神うのためよ慮たまへる十ま
らわれらのためよのこられ残れひとぬひのこのわき
らのためよ録のぬつるあり。その耕のもの望ありとうつへ
し。こくもつ残のものまのこくもつ残得のぞみありと
こなるとらぶなれをを土されらもしあんぢのためよ靈
のもの残まこらにあんぢらの肉のもの残うとるへ大
事トあらんや十一 やの人もしこの權威をあんぢらのうへよ

もよばましこれらをや。されどされらこのけんをもち
おんキリストの福音よさまうげあきやうよわれらほべて
のことを志のぶ十三 あんぢらしらぎるの聖事残つとむも
のこみや残のもの残をうく祭壇よつのあるものいさらど
んとともよその領残とることを十四 このごとく主ありん
残れつとあるものも福音よよりとまをさんと残さど
めとぬへを十五 されど我これらのことの一をもちおんま
さかくのさとくせらんとめよこれ残れおきおくるよあら
ば。そを我わらるところ残人よむあしせられんよをいむ志
る死るいわれよよきことなればあり十六 われあくりんを結

べつとあるとりへども誇^{おほ}べきところなり。已^{おほ}にえざるあり
も。われ福音^{くわん}をばつてていざの實^{じつ}はわざとひなり。十七
われこのみごとくわれをなきが賞^{あや}をえん。も。我^{われ}のまぶするも
その責任^{つと}はわれはあづかれ。十六
あるや我^{われ}をくりんをばつててあるよ人^{ひと}をばつてつひえな
く、キリストのふくりんをせしめしむる福音^{くわん}はあましくわが
もてる權^{けん}をみざるもちおざる即^{すなは}ちこれあり。十九
ての人^{ひと}はむくのひと自主^{とら}のわれわれとさらしおやくのひと
にえんよめよみづうらわれわれをばつてのひとの奴隸^{とら}とな
せり。二十
ユダヤびとをえんよめなり。また律法^{りつぽう}の考^{かう}くよあるものよ

ユダヤびとをえんよめなり。また律法^{りつぽう}の考^{かう}くよあるものよ
の我^{われ}おきてをばつてはあらざれどもおきての考^{かう}くよあるも
の。ごうくなれ。これ律法^{りつぽう}の考^{かう}くよあるものやえんよめ
あり。ニ
あり。おきてをなきものよ。我^{われ}おきてをなきもの。ごうくな
れ。これおきてをなきものや得^えんよめなり。されどわれ神^{かみ}は
むかうひくおきてをなきよあらん。またキリストのおきての
考^{かう}くよあるなり。三
柔弱^{じゆわく}のものよ。われよわきものれごうく
なれ。これよわきものをえんよめあり。またごうくをての人^{ひと}は
はるれそのはるてのひとをばつては考^{かう}くよあり。これよのよも
はるれら數人^{かず}をばつてをえんよめなり。三
あま福音^{くわん}をばつては

この行く行をひとごとくもみまくりんよあぶららんよめなを^{二四}
あんぢらあらんや馳場^{ちせう}よまらるもののみなをくれども集^{たく}
美^び哉^いらるものいごと一人^{ひとり}ある哉。あんぢらも得ん^えよめよそ
しるべし^{三五}まべて勝^{うち}哉あらそふものいありよそと哉ゆひの
へ謹^{つしむ}なり。のれらいやおれやけき晁^{あき}哉えんがよめよこれ哉
おこあひ我^{われ}儕^らのやおれさるわんむり哉えんがよめよこれ
哉行^{かぎ}あり^{二六}さればあぶ趨^{うご}いめあてなきがごときよあらばお
かたがうひい空^{くう}哉うつがごときよあらば^{二七}おれれの體^{てい}哉
うちこれ哉服^くせむ。その布^ぬのの人^{ひと}哉やへきみづうら
棄^りられんごとと残^{のこ}あそるればなり

第十章 兄弟^{きょうてい}よわれあんぢらが^{二八}龍^{りゆう}のこそと残^{のこ}あらざる哉この
まぐ。それこれらのせんぞのみな雲^{くも}のよあり皆^{みな}うみ哉
とわをみまくもと海^{うみ}のよくバフテスマ^{二九}哉うけくモーセよつけ
ま^{三〇}みなあをトく靈^{たま}のくひもの哉食^くよ^{三〇}みなあをトくれ
いのけみもの残^{のこ}のめま。これのれらよあてかへる靈^{たま}の磐^{いわ}よ
り残^{のこ}みくるる。そののけきけなわちキリスト^{キリスト}なり^{三一}五され
どくれらのうちおちくハ神^{かみ}残^{のこ}くるるよかなのぎるがゆえ
よ曠^{あひら}野^ののちろがされ^{三二}六これらのこそわわれら残^{のこ}
くられらが審^{さだ}しごとく悪^{あく}哉^いよまらるるわもらの鑿^{うら}
あり^{三七}民^{たみ}のぎららんあうく^{三三}起^たきまへまよるされ

るごとくわれらのうちあるものなせしはならひてあんぢ
ら偶像くわうざうをむむものとなるあうれハまさうれらのうちあ
るもの奸淫えんあるをひ一日は二萬三千人たにさう。うれら
はならひてわれらうんらんまぶらば九まさわれらのう
ちあるものキリストをむむるみま蛇へびは布ろ布されさう。の
れらよならひてわれらも試あまべうらば十まさうれらのうち
あるもの怨言つげをむむるものはゆるがされさう。うれらよ
ならひてあんぢらもほおやうをうれ十うれらがあつるこ
のまぶてのころを鑿うとなれま。うらうれらのころをたさ
れさう。ハ末世せいのよよあつるわれら残りましむるころあり十二

されバみづうら立たてとおもふものいさうれざるやうまつ
あむべし十三あんぢらあ遇あひしころみ人のつねならざる
いなり。おみの信しんあるものなり。なんぢら我らへあのおこ
とあつる試惑こころよあをせし。なんぢら々そのころろみ我
ららへあのおここと我らえんよあよそれよまへて我らざるべき
まあ我らそなへてあむべし十四されバわが愛あひするものよむ
うぎう我拜まがはるあむをさくべし十五これ智者ちやよいふごとく
いせん。あんぢらわがらふところを我審まがべし十六われらららふ
ところを祝杯しやくはいいともよキリストの血ち我らくるよあらばや。わ
れらが壁かきとさうのパンハともよキリストのうららば我領うららよあら

ばや^{十七}パンをさ^{十八}一なり。あむくのわれらもま^{十九}一體なり。その
みなひとら餅^餅やともようくればなるを^{二十}肉^肉はぞくはるイ
スラエルの人^人やみよそなるもの残くらふもの祭壇^{祭壇}はあづ
うるものよあらばや^{十九}されば^{二十}りりる^{二十一}こといなみぞや
偶像^{偶像}のあるものとりへるあ。あつらばぐうぎうよささげ
もののあるものとりへるあ。あつらば^{二十二}られり^{二十三}ん異邦人^{異邦人}
のささぐるもの神^神よささぐるあらば悪鬼^{悪鬼}よささぐる
なり。これあんぢらかあくまことまどちうだこのまば^{二十四}あん
ぢら主^主のささつづきと悪鬼^{悪鬼}のささつづきと残^残かねのむことあ
らむだ。あむの楚^楚とあくまのむ^{二十五}ろろ^{二十六}は兼伴^{兼伴}あ^{二十七}らば^{二十八}り^{二十九}

れら主^主のねとみ残^残おこさんとゆるうわれらあむよりも強^強
ものあらんや^{三十三}まべて^{三十四}のものあれよ^{三十五}うらざるなり。され
ときべて^{三十六}のもの益^益あるよあらばまべて^{三十七}のものわれよ^{三十八}
らざるなり。されと^{三十九}べて^{四十}のもの徳^徳残^残とるよあらば^{四十一}人^人
みなおのれのえきを^{四十二}もとむる^{四十三}なく^{四十四}おめく^{四十五}ひとの益^益残^残もと
むべ^{四十六}り^{四十七}べて^{四十八}市^市よう^{四十九}も^{五十}けを^{五十一}良心^{良心}は^{五十二}めよ^{五十三}あ^{五十四}こと^{五十五}残^残
せ^{五十六}く^{五十七}食^食は^{五十八}べ^{五十九}り^{六十}その^{六十一}地^地と^{六十二}これ^{六十三}も^{六十四}み^{六十五}てる^{六十六}もの^{六十七}の^{六十八}主^主の^{六十九}も
のなれば^{七十}なり^{七十一}あん^{七十二}ぢら^{七十三}も^{七十四}不信者^{不信者}よ^{七十五}す^{七十六}ね^{七十七}う^{七十八}れて^{七十九}ゆ^{八十}らん
と^{八十一}せ^{八十二}ば^{八十三}ま^{八十四}べて^{八十五}なん^{八十六}ぢら^{八十七}の^{八十八}ま^{八十九}へ^{九十}よ^{九十一}お^{九十二}け^{九十三}る^{九十四}もの^{九十五}を^{九十六}良心^{良心}の^{九十七}よ^{九十八}め
よ^{九十九}あ^{一百}こと^{一百一}残^残せ^{一百二}く^{一百三}り^{一百四}て^{一百五}あ^{一百六}よく^{一百七}は^{一百八}べ^{一百九}り^{二百}も^{二百一}り^{二百二}人^人なん^{二百三}ぢら^{二百四}よ

これハ偶像ケウキョウヨサケーものなりとハケル告ツーもの此コノニ
まゝ良心レイシンのつめヨこれ我ガ若ニシくハルなるれ。その地チトこれ
ヨみてるものも亦モ若ニシくハル。屬ウケたればなり。二九
なんぢらの良心レイシンヨあらハ他人タノヒの事コトやうーん我ガハかなう。い
ふんぞ亦モ亦モのひとの事コトやうーんヨつら自由トヨウ我ガつみヨサケ
めらるゝこと也ナリせんや。三十一
あれ感謝カンシャーと若ニシくハルこと
と我ガ若ニシくハルんをそのかんーやハルこと若ニシくハルものヨサケ
て若ニシくーハルこと我ガせんや。三十二
さればあんぢらくらふも
も飲ノミよもなまよごと我ガあとなふも若ニシくハルて神カミのささるゝん我ガあ
ら若ニシくやうヨ行イダクふべー。三十三
ユダヤ人ユダヤ人我ガもギリシヤびと若ニシくハルもまゝ

神カミのけうくわい我ガもつまづのハルなるれ。三十三
まゝあハちわが
まづてのことヨおら若ニシくハルての人ヒトのこゝろヨわかたふやう
よし。うれらがまゝされんつめヨおのれの益エキ我ガもとめばお亦
くの人ヒトのえき我ガもとむるが若ニシくハルべー

第十一章ヨガ キリストヨならん若ニシくハルんぢらくれヨ效コトべー。○

二 兄弟ケイテイヨなんぢらくまづてのことヨおいとられ我ガ記念キネンのつ

あがあんぢらくつてー若ニシくハルその傳ツタヘ我ガまもるヨサケ

我ガなんぢらく我ガほむ。三 若ニシくハルての人ヒトのうーらハキリスト。あり

なんの首カウハ若ニシくハルキリストのうーらハ神カミなりとなんぢ

ら若ニシくハルん若ニシくハル我ガわが若ニシくハル。四 若ニシくハルて男オトコ若ニシくハルらヨ若ニシくハル我ガの

むりくいのり我なりあるひの預言^{よげん}はるるときいその首^{くしら}我を
づのしむるなり 五 ^{いん}まきて女をうしらはよものをむらび
る祈^{いのち}我ありあるひのよげんはるるときいそのうしらは我辱^{おとし}
むるなり。こそ薙^そ髪とひとつましくたぶふることなり 六 ^{いん}女も
しものせむらびは髪^{かみ}我きるべし。されどこのみ我剪^{きり}まことそ
ることもし我んなのちづべきことならはもの我あむるべ
し 七 ^{いん}女もこの神のうしちとさくえあれはそのうしらはよ
の我蒙^{くら}べうらび。せんあはせとこの榮^{さか}なりハそのせとこの
せんなるういでしよあらび女^{いん}のせとこよりいでされはあ
り 九 ^{いん}まこと男のせんあはせとつくられしよあらび女^{いん}を

とこのさめよつくられしなり 十 このゆえはせんなる天使^{てんし}
のゆえはよりくうしらは權^{けん}我もつべきものあり 十一 ^{いん}されと主
よありていせとこさせんなるよららざるごとく女^{いん}のせと
こよよららざることなり 十二 ^{いん}せんなる男よりいでしどくを
とこのせんなるよよりて出^いるうし萬物^{ばんぶつ}みあのみよりいづ
るなり 十三 ^{いん}せんぢらみづくらわきまふべし女^{いん}もの我あむら
びし神^{かみ}よいせ。いよろしきことあるの 十四 ^{いん}男もしなづき
髪^{かみ}あらびまづべきことありとせんぢら自然^{しぜん}よしるよあらび
や 十五 ^{いん}されど女もしなづきうみのけあらびそのさくえなり
そのうむりものれわたりようみのけ我うむひされはなり

十六 だどひあらそひ論ぶるものありともこのくのごとき例を
あれらよもまご神のけうくさいいよもあることなり。十七
れまをら此くご命とてなんぢら残布めざるいあんぢら
の聚會えき残うけむしとて損残まぬけななり。十八
づなんぢら教會はあつまるるときそのらあごひはあらえ
ひわりのうごことあるときけを。われ畧るをまんず。十九
いごごしきものゝあんぢらめらあはつれんごめ異端
あごらざる残えぎればなり。二十 なんぢらひとりごころよあ
つまるいまの晩餐残あうくはるまあらん。二十一 食むる
ときおのくまづおのれのさんさん残あうくはるよよ。あ

るひい飢ものありあるひハ酔あけるものあれななり。二十三
んぢらりんごうくはべき室たきご神のけうくわいとご
んどまご乏者をまがうめんごはるご。われなご残あいて
んごれよよりてあんぢら残稱揚べきや。われい布めざるな
り。二十四 なんぢらよつごごご主よよりきごけられご
るなり。ををそち主りごはわごさるご。夜パン残とを。二十五 祝
ごこれ残さきいひけごいごりご食せよこれいなんぢらめ
ごめよさるご。わご體なごあんぢらも如此あごなひてご
れごおがえよ。二十六 食ごごのちごご杯残とをさきごのごご
くひひけるいごのさごづきごわご血よごごごごごごご

の新約なる。なんぢらもこうくおこたひて飲ぶとはわれ我憶
よ ^{二六} あんぢらこのパンを食よく―このさうづき我のむで
とはあゆれ死我あめ―そのきこるときさうづき及なり ^{二七}
さればよろ―きよかなきば―このパンを食よく―主の
さうづき我のむりのハ―ゆのうらぶと血我をうけなり ^{二八}
人みづからうへりみてのちそのパンを食―そのさうづき
我のおべ― ^{二九} 宜はうあつば―くひのみはるものハその
くひのみはようてみづ―ら罰我すねくなり。その主のうら
ぶ我あきまんぎらよゆる ^{三〇} このゆゑはあんぢらのうちよ
よわきものやまひのものまこねふてくるものあり― ^{三一} わ

れらも―みづ―ら自己をささき―あらばむつや蒙ることな
あ―ならん ^{三一} されどいま罰せらるゝ主のわれら我こ
ら―わ―ゆるなり。それこそらな―て世のひと―ゆもよさ
つ我わうむることなうら―めん―めなり ^{三二} このゆゑはわ
が兄弟よあつまりてあよくせんとき―ごひはあひまわべ
― ^{三四} も―ら急なぶその家よ―あよくはべ―。これなんぢら
新あつき―罰我うむるよ―らざらん―めなり。そのな
うのこといわれは―らんときこれ我定ん

第十三章 きやうぶのよ靈の賜はつりていられなんぢらガ志
らざるよこのまは ^二 なんぢら異邦人なり―とき引誘よ―

こがひくものりさざるぐらざるものもとよさそりれゆき
いあんぢらの知ところなり 三 このゆゑよこれあんぢらよ
あめさん神のよまよ感トくものい耶穌をたろふ
べきものとりふものなり。まゝ人せられいよんせざれば
いほん城主とりふありん 四 賜のことなれども靈のおな
ト 五 職のことなれども主をおなト 六 まゝこらきい殊と
も一切のこをほべての人うちよおとあふ神のおなト
七 みらまは顯をおめくよまひよを益たえせしめんよめ
なり 八 あふひい靈によましく智慧のこをばたせしめんよめ
ひいおなト靈よましく知識のこをたまひ 九 あるひい

おなトみらまよましく信仰せしめたり。あるひいおなトみ
らまよましく病たいやに能たよまたり 十 あるひい異能た
おとあひ。あるひいよげんしあるひい靈をわきま。あるひい
ひ方言なりひい。あるひいちうげんを譯するのちうらたま
それり 十一 されどまべてこれらめをを行ものいおなト
ひとの靈あり。うれそのころのまよおのくよ願與たり
十二 體をひとのまよおやくのえさありひとのからごの
べてのえさいおやけれどもひとの體なりキリストもまよ
かくのぶと 十三 あふひいユダヤ人あるひいギリシヤびとある
ひい奴隷あるひい自主よわ、ちらたわれらみな一靈よあ

りくバプテスマ城受ひとつのからごとなるまゝみなひとり
のこゝろ城のゆり^{十四} そのいからごと一肢のみはあらびおや
くあればなり^{十五} 足もーわれ手はあらざるがゆゑはからざ
は屬せぬといぢ^{十六} それよまゝく身はぞくせざるの^{十六} まゝ
みもーわれ目^{十七} はあらざるがゆゑは身はぞくせぬといぢ
それよまゝくあらざよまゝくせざる^{十七} もー全身めならび
きくところいりごとや^{十八} もーせんーん耳あらはうぐとこ
ろちりごとや^{十八} それ神をこゝろはまゝに肢城おのくか
らざよおまゝくぬ屬もーしみなひとり結えとあらば身もい
づこぞや^{十九} 肢^{二十} はあぢくあれどもこのらざんひとりなり^{二十} 二め

へ手はわれなんぢよ用なりといふ城えぬまゝ頭もあしよ
りれあんぢよようなりといふ城えぬ^{二十一} ちらざちち尤よ
わーとみやうえんごの却^{二十二} なあるべうらざるものなり^{二十三} くら
どちちちちとわらんとあぢふところろに物城まゝとひきこ
れらこゝろよこれ城尊^{二十四} られよまゝこれら此みよくきとこ
ろのまゝまゝ美なるなる^{二十五} われられうるまゝきとこゝろい
こゝろ城もあぢるよあぢはは神を此あられるところよ
殊^{二十六} またあまぎ城くまへく身城とゝのへうら^{二十七} 二五これ身
結らちわつるゝこゝろなくもろくの肢とびひよあひあへ
みこらんゝめなり^{二六} もー一肢くるゝまゝはまゝでめえごとよ

よくも一^一のえご^一とあそむれなむをばての肢^{あし}ともよ
ろくぶなり^{二七} あんぢらぬキリストのつらぶり^一とま^二とおの
おのそのえぶなり^{三六} 神^{かみ}いだゆ^一ち^二使徒^{しと}ぶい^二よ^三ざん
考^{かう}や^{三六}第三^{さん}は教師^{けうし}そのつぎ^一は異能^{いなる}我^{われ}あ^二た^三ふ^四もの次^{つぎ}よ^五や^六
ひ我^{われ}り^一や^二は^三ち^四う^五ら^六我^{われ}う^七け^八一^九もの救濟^{きうさい}は^{一〇}る^{一一}も^{一二}此^{こゝ}治^ち理^りも^{一三}の方^{かた}
言^が我^{われ}り^一ふ^二ものを^三け^四う^五ら^六ま^七い^八よ^九あ^{一〇}ぎ^{一一}う^{一二}ゆ^{一三}ら^{一四}ま^{一五}元^{もと}これ^{一六}みな^{一七}使^し
徒^とあら^{一八}ん^{一九}や^{二〇}。みな^{二一}預言者^{よげんしや}あら^{二二}ん^{二三}や^{二四}。みな^{二五}教師^{けうし}あら^{二六}ん^{二七}や^{二八}。みな^{二九}ち^{三〇}
う^{三一}ら^{三二}ある^{三三}。あ^{三四}ぎ^{三五}我^{われ}あ^{三六}と^{三七}あ^{三八}ふ^{三九}も^{四〇}此^{こゝ}あら^{四一}ん^{四二}や^{四三}。三^{四四}み^{四五}あ^{四六}病^{びやう}我^{われ}り^{四七}や^{四八}は^{四九}
能^{ちから}我^{われ}も^一てる^二もの^三なら^四ん^五や^六。みな^七ち^八う^九ざん^{一〇}我^{われ}り^{一一}ふ^{一二}もの^{一三}あら^{一四}ん^{一五}
や^{一六}みな^{一七}譯^{やく}は^{一八}る^{一九}もの^{二〇}あら^{二一}ん^{二二}や^{二三}。三^{二四}なん^{二五}ぢ^{二六}ら^{二七}ま^{二八}ぐ^{二九}れ^{三〇}ら^{三一}る^{三二}こ^{三三}ま^{三四}も

の我^{われ}あ^一こ^二ふ^三べ^四。も^五つ^六と^七も^八善道^{ぜんどう}我^{われ}なん^九ぢ^{一〇}ら^{一一}よ^{一二}あ^{一三}め^{一四}さん^{一五}
第十三章 た^一と^二ひ^三われ^四諸人^{しよじん}の^五こ^六ら^七は^八お^九よ^{一〇}び^{一一}天^{てん}使^しの^{一二}こ^{一三}と^{一四}を^{一五}我^{われ}か
こ^{一六}ら^{一七}と^{一八}も^{一九}も^{二〇}一^{二一}愛^{あい}な^{二二}く^{二三}バ^{二四}鳴銅^{なるどう}や^{二五}響^{ひび}鉦^{かね}の^{二六}こ^{二七}ら^{二八}一^{二九}二^{三〇}と^{三一}ひ^{三二}われ
預言^{よげん}は^一る^二の^三能^{ちから}あ^四り^五ま^六と^七ま^八べ^九て^{一〇}の^{一一}奥^{おく}義^ぎと^{一二}ま^{一三}べ^{一四}て^{一五}の^{一六}學^{がく}術^{じゆつ}よ^{一七}達^{たつ}
し^{一八}ま^{一九}と^{二〇}山^{やま}我^{われ}う^{二一}ら^{二二}は^{二三}ち^{二四}と^{二五}あ^{二六}る^{二七}ま^{二八}べ^{二九}の^{三〇}信^{しん}仰^{やう}あ^{三一}ら^{三二}と^{三三}い^{三四}く^{三五}ど^{三六}も
も^{三七}一^{三八}愛^{あい}あ^{三九}く^{四〇}わ^{四一}ら^{四二}あ^{四三}る^{四四}よ^{四五}た^{四六}ら^{四七}ぬ^{四八}もの^{四九}あ^{五〇}り^{五一}三^{五二}假^か令^{れい}あ^{五三}れ^{五四}日^{にち}が
ま^{五五}べ^{五六}て^{五七}の^{五八}所^{ところ}有^あり^{五九}我^{われ}ち^{六〇}こ^{六一}ら^{六二}ま^{六三}と^{六四}焚^{たか}ら^{六五}う^{六六}ら^{六七}あ^{六八}は^{六九}わ^{七〇}ら^{七一}ら^{七二}我^{われ}
あ^{七三}こ^{七四}あ^{七五}る^{七六}も^{七七}も^{七八}一^{七九}あ^{八〇}い^{八一}あ^{八二}く^{八三}バ^{八四}われ^{八五}よ^{八六}益^{えき}を^{八七}ま^{八八}と^{八九}あ^{九〇}い^{九一}は^{九二}ま
の^{九三}ぶ^{九四}こ^{九五}と^{九六}我^{われ}ち^{九七}ら^{九八}ま^{九九}と^{一〇〇}人^{ひと}の^{一〇一}え^{一〇二}き^{一〇三}を^{一〇四}は^{一〇五}ら^{一〇六}る^{一〇七}なり^{一〇八}愛^{あい}の^{一〇九}結^{むす}ぶ^{一一〇}ま
ば^{一一一}ち^{一一二}ら^{一一三}ば^{一一四}と^{一一五}の^{一一六}あ^{一一七}ら^{一一八}ば^{一一九}非^ひ禮^{れい}我^{われ}あ^{一二〇}と^{一二一}なる^{一二二}は^{一二三}お^{一二四}の^{一二五}れ^{一二六}の^{一二七}利^り我^{われ}も

とめばかあぐいしくりのらだ人のあーたを念まへ 六 不義故
よろこむば真理故よろこび 七 あやよそこと包容おほまを
こと信しあやまそ事のぞみ凡こと忍耐あり 八 愛といつま
づも墮こことたうー。されどよげんを廢さうげんをやみ知識
もまことまことらん 九 それらのあまき全うらば預言もまこと
うらば 十 全ものきこらるとまきのまことからざるものまこと
べー 十一 それ童子のときにからるとまらわらばはくこくさ
とらとまらわらば乃まことまことまらわらば童子のまことな
まの成人まらわらばのこと我まことまら 十二 われらのまか
み故もく見まことまらとまらあぼるまらまされどこの時よ

の面故あままらあひみん。われのま知識とまつさうらだ。
されどまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
れまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
のらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

第十四章

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

れ故慕べー。まらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら
たり 三 されど預言まらまらまらまらまらまらまらまら
勉故まら安慰故まらまらまらまらまらまらまらまらまら

此れの徳哉たゞ。よびんはるものハ教會のうへに哉とらるな
五 されあんぢらがな方言哉うたること哉も終ぐんと最
終ぐふとらるハなんぢらに預言せんことある。ちうぢん哉
うらるものハも一譯一々けうくわい此徳哉とらるよあら
びいよびんはるものこれよりまさるなり 六 されバ兄弟と
われも一なんぢらよりとらる只ちうぢん哉うとらるて黙示あ
るひハ知識あるひハよびんあるひを教誨哉うとらればあ
んぢらよたよのえきあらんや 七 それ靈たうとらるこゑ哉い
づれも此あるひハ笛あるひハ琴も一その音わらちあゝぞ
吹とらる彈とらる哉いづぐち聖えんや 八 も一ラツバさぞ

ま聖あきおと哉いづとらバ誰とらうひ此を考へ哉あらんや
九 あく終ぐとらなんぢらも舌哉もとあきとらる言哉
いざささるいづをわらるとらるのこゝと哉あらんやこれあんぢ
ら空氣よりとらるなり 十 されたのの口音のこゝとひあや一と
いへども一とらるも此義あらざるあ一 十一 このゆゑよも一
われそのこゝと義哉とらざればわらるものハ對一とわれ
えびはとあり言ものまことわれまたいしと夷とあるなり 十二
されバなんぢらも靈賜を考とらるものなるよよりけうくわ
いの徳哉とらるよめよそれとまも此のゆゑとららんこと
哉わらふべ一 十三 このゆゑよ方言哉うとらるものハみづら

あれを譯せんあやをいのる座十四もーわうぞんをもくい
せらばりご靈十五さいのるあれとあぶるる人のためは果
成むはちを十五あからむいごよせん。われ靈十六をもくいせらん
まご心十七成もていせらる。わきねいをもくいとさん。われくくろ成
もて歌頌十八ん十六あうらばいあんち靈十九成もて祝二十はるときあろ
のなるものあんちのかさるること成しらざればあんちの
感謝二十一はるときいごうごアーンとらあんや二十二あんちのあ
んちやはるの善二十三されとあのかひとの徳二十四成とては二十五われを
んぢらよりもあやく方言二十六成くくろをもく神二十七ようんしやは
十九二十八教會はちよありくわれちうぞん成もて一萬二十九のこと成

あくらんよりむしる人一成をーへんごめよわぶるる成も
く五言二成あくら成よーと成三兄弟四をちあよおひてハ嬰兒五
とあるあうれ悪六はおひてハちうあごともあれ智慧七はおひて
ハ成人八中なるべー九あきてよあごー主十りひごあらく異十一
ことをあとあるくちびる成もてこの民十二ようくらんあうれ
どもうれらわれよきごトとあり十三このゆえよ方言十四ハ
んぢるものためよあらば信十五せざるも成、ごめよあらばあんぢるも
されど預言十六ハーんぢざるも成、ごめよあらばあんぢるも
のくごめあり十七もー全會十八ひとところよあつまるるときみま
ちうぞん成もくあくらば愚者十九なるひハーんぢざるものい

まきくらんときあんぢら我狂るものとしらざらんや 二四 され
ども一みなよびんせを信せざるものあるひのあらうある
ものいまきくらんときさそせまべての人よよきてみづくら
我責こせまべてのひとよよりておそれの罪我ことむべ一
二五 かくのさそくそのあろろよわくせざることあららるる
がゆゑ一俯伏しおみ我をこがせまゝと神はまことよあんぢら
のうちよいまはといまん。二六 考うらばいん兄弟をあん
ぢらあつまねるときお法くよ或はうたありあるひの教誨
ありあるひのちうばんありあるひの黙示ありあるひの繙
譯ありとどく徳我とせんうめよこれ我あはべ一 二七 ち一

方言我々くるものあらばあつりまゝとあわくとも三人よは
ぎ次次序よとまゝくわつりまあれをやくけるもの一人あるべ
一 二八 とも一譯ゆるものあきとまゝのうくわいのうちよ黙一
くおわれと神ようくるべ一 二九 よばんゆるもはるあつりあ
るひの三人のうくるものわののものいこれ我辨別べ一 三〇 ち
一うさつらよ坐ゆるものもく一我えがさきよかせるもれ
だまるべ一 三一 そのなんぢらみなはびて人よまなばせま
と勸勉我うけしめんよあまひとりくよばんゆること我う
れはあり 三二 よばん一やの靈のよばんとやよ制せらる 三三 ち
れ神をみだれはらみよあらば和平をのみあり 三四 聖徒は

諸々つくわいのごとくなんぢらの婦女たちもつらわいの
 のうちよ黙さば。われらのつらわいのゆるさば。われらの律
 法よいらるべし。いかにいかにいかにいかにいかにいかに
 とひるゝところあらば室よあまをその夫よとあべ。そのを
 んを教會よあいらう。いかにいかにいかにいかにいかに
 神はちとば。なんぢらとをいかにいかにいかにいかにいかに
 き。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 まよらん。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 主の命たうとま。いかにいかにいかにいかにいかにいかに
 らざるよま。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 されバ兄弟とよ。いかにいかにいかにいかにいかにいかに
 いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 と端正の次序よ。いかにいかにいかにいかにいかにいかに
 第十五章 きやうごのよ前よわがなんぢらよ。いかにいかに
 いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 れよ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 と。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 いく。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 は。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 わ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 む。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

第十五章

きやうごのよ前よわがなんぢらよ。いかにいかに
 いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 れよ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 と。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 いく。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 は。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 わ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 む。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 と端正の次序よ。いかにいかにいかにいかにいかにいかに
 第十五章 きやうごのよ前よわがなんぢらよ。いかにいかに
 いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 れよ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 と。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 いく。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 は。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 わ。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに
 む。いかにいかにいかにいかにいかにいかにいかにいかに

門徒^ドはあはれりれさふつることあり^六あくあらされさふへ
るのち五百のきやうどののもともあるときまここれあ
らりれさふつそその兄弟^{トヨキ}がうちあやぐの今^{イマ}あほ世^ヨはあ
されどもきそでよ寝^ネさるものもあり^七あほのちヤコブ^{ヤコブ}よあ
らはれまこまぶての使徒^{シド}はあらされハいやまこよ月^{ツキ}さら
ぬ由のさごときわれもあらされたまら^九そのわれ神^{カミ}
のさうくわいのなやもせしゆ急^{キウ}よ使徒^{シド}と堂^{ドウ}あやよさうざ
るものよさるまのさちよ至微^{シウイ}ものなればあり^十されど
わがわくのさうくたうやえりの神^{カミ}はさぐみよさうくあり。
われまこまひのみに思^{オモ}むな^ナららばわれのまをさるの使徒^{シド}

よりもあやぐ^{ツマ}り。こをわれよあらびわれともよある
神^{カミ}のめぐみあり^{十一}この故^ユよわれもわれらもあくのぶとく
のべつさへなんぢらもまこのくのでさう信^{シン}ぜり^{十二}キリ
ストは死^シさうよみぐへま^{十三}とさべつさあるよなんぢらの
うも死^シさうよみぐへることなる^{十四}あめのあるいなんぢ
や^{十三}も^{十五}死^シよりよみぐへることなくバキリストもまこよ
みぐへらざり^{十六}あらん^{十七}キリストもよみぐへらざり^{十八}な
らバわれらの宣^{ノゾ}ところむあし^{十九}まこあんなぢらのさうん^{二十}ら
も徒然^{トラン}あらん^{二十一}うら^{二十二}れら神^{カミ}のま^{二十三}あ^{二十四}ま^{二十五}證^シば^{二十六}はるも比^ヒと
ならん。われら神^{カミ}へキリスト城^{シロ}よみぐへらせし^{二十七}とあ^{二十八}の^{二十九}い^{三十}れ

べあり。もあ死しものよみぢつることなくばこのみキリストが
 復生しむることなるべし十六もあ死しものよみぢつること
 ことなくばキリストも復生しあとの望しあらん十七もあキリ
 ストよみがへらざまあらんばあんぢら信仰をむなしくな
 んぢらの心を罪よせらん十八まあキリストよあうを給あする
 るものも沈淪しならん十九もあキリストよよれるわれらの望
 ごとこの世のみあらざまべての人のうちよをもつともあ
 ち終むべきものあり二十されどいぬキリスト死よりよまぢへ
 早くあありとするものよよみぢつ望し首となれり二十一これ人
 よよまうを求めること出ひとよまうを復生しといでこりア

gamuは屬はべての人のしぬるごとくキリストよつたるを
 てのひとを生起し二十三されどあぢくその次序よあさぢふ。
 ド突ハキリスト次てキリスト終きたらんときあれは屬するも
 のなるを二十四後られもろくの執政およびもろくの權威と能
 ぢあろぼしゆくは残ちし神にわさきん。られ終るを二十五そ
 いられまべての敵は其のあし終あすはあくとまきまぢの王
 くらざう残えぎ終らあり二十六最後よあろがさうしてさい死
 あり二十七その神はべてあもの残キリスト終足下よあきこりあへ
 ばあり。まべてのあぢをそのしを置とらひらあへるるとき
 はあべてのあぢをその下よあくとこそのあぢをその内よ

あらざることを祈きらかなん^{二八} 萬物^{ばんぶつ}うれよ者^{もの}と^いふべきは
子^こもまことみづらひ^いべてのもは我^{われ}おのれ^のは服^{はく}せし^もは
者^{もの}あざむべしこれ神^{かみ}もべて我^{われ}の^のうへ^は主^{しゅ}とらん^とめ
あり^元も^一死^しし^{もの}まの^のこ^とよ^みづ^つら^ば者^{もの}に^しもの
我^{われ}の^のは^はバ^プテ^スマ^バウ^リク^ナの^のめ^はせん^とは^はる^るあ^うれ
ら^者よ^しもの^のは^はバ^プテ^スマ^バウ^リク^ナの^のめ^はせん^とは^はる^るあ^うれ
と^何の^のめ^はわ^ねら^つね^は危^{あや}険^{あせ}よ^とは^はる^るや^三 わ^れら^の主^{しゅ}キ
リス^ト 耶^い穌^すは^あり^くなん^ぢら^はよ^つき^我も^てる^よろ^こび^我さ
し^誓く^われ^日々^は志^あぬ^ると^らふ^三 も^しわ^れ人^{ひと}の^のこ^とく^エ
ペ^リよ^あい^く獸^{けもの}と^もよ^とが^かひ^しあら^ば我^{われ}の^の益^{えき}あらん

や。も^し者^{もの}よ^しもの^のよ^みが^くら^ばの^の飲^{のみ}食^{くい}は^るよ^しわ^ん。わ^れ
ら^明日^{あした}志^あぬ^るべき^{もの}の^のあ^れば^{あり}^{三三} あ^んぢ^らら^まづ^ら欺^{あざむ}な^の
れ^あし^きま^した^まの^の善^よ行^{こころ}は^ななり^{三三} なん^ぢら^ら醒^さて
し^ても^し我^{われ}あ^らむ^べし。つ^み我^{われ}を^うん^あう^れ。なん^ぢら^らは
う^ち神^{かみ}に^らざ^るもの^のあ^り我^{われ}あ^らむ^べし^あん^ぢら^ら我^{われ}を^うん^あう^れ
か^しむ^るあ^り○^{三五} 人^{ひと}あ^らむ^べし^あん^ぢら^らの^の如^い何^{こう}よ^み
が^くる^やり^のあ^るわ^らば^よく^きこ^るや^と^{三六} お^ろの^のあ^るも
は^なん^ぢら^ら播^まく^{ところ}の^のま^が死^{しな}ざ^れば^りき^びん^{三七} ま^ま
なん^ぢら^らま^まく^{ところ}の^の將^あ来^ちを^ゆる^とこ^ろの^の體^{たい}は^まく
よ^あら^ば麥^{むぎ}も^もわ^らの^の穀^こも^もく^ら粒^{つぶ}は^まみ^{三八} 者^{もの}あ^らる

と神のおおかれのこころは考へがひそくなられはわらわちぢあ
くへ種ごとよそのおほくの體ぢあるへつるふ 三九 さぐての
肉あなぞもくはあらば人のにくあり獸はくあり鳥のよ
くあり魚のよくあり 四一 天はつらるもはの形體あり地はつ
らるもはのこころちある。てんはつらるもの榮はちよつら
るものさうえは異あり 四二 日のさうえあり月のさうえあ
り星はさうえあり此布しとのほしとをれさかえまことお
ほくこころなる 四三 死しひとはよみぐるもまことかくのこ
し朽壞ものこころまかほくちぐるものは復生らせられ 四三
ふところらぐるもはくもくまうれ榮あるものよよそがへらせ

られよわきものよて種れつよきものよとみぐるらせら
れ 四四 血氣のこころとよてまことれ靈のくらとよよみぐる
せらるなり。けつきの體ありれいのこころとあり 四五 考る
しと始はひとアダムはけつきのもはとあり終のアダムは
いのちたあこころ靈とあるとある 四六 靈のものは
さきよあらばくまこ血氣のものさきよありつねに
のものおちよ在あり 四七 第一のひとの地よりいざつちよ
づき第二のひとの天よりいでくる主あり 四八 このつちよ
属るものよはて土はつらるもの似なる。このてんよ
つらるものよはて天はつらるもはははるなる 四九 あれら

土はつりるも汝の状汝もつ。このくはぶらうく汝あまると天はつ
りるも汝のあうちぢもたん 五十四 兄弟をわれあれをいそん肉
と血へのみのくに汝つとくとあとのにまると朽壞ものい
ちぎるもの汝嗣とあとのに 五十五 視よわれなんぢらと與義
汝つぢん。あわらうもぐく祐あるもああらに。おれらみあ未
汝ラツバの响んとききたちまあまた、くひまは化せん。そハラ
ツパならんとき死しひとよみぢらうもくちぢ。それらもま
と化はべりれはなり 五十六 此くつるものあうぢらにくちぎる
も汝を著考ぬるものあこのならん考あうぢらものせきるべし
五十四 このくつるものくちぎるも汝あき此考ぬるものあなご

るも汝をきんとき聖書はあうし死の勝はのまれんとあ
るよこのあうべし 五十五 死をなんぢの刺ちらぐよあるや陰府
よなんぢの勝へのけくよゆるや 五十六 死のそ里へのつみなる罪
汝ちがらのあきてなり 五十七 汝わらせしうわが主の正にキリ
ストよよりてあちぢえせしむる神よあやに 五十八 このゆえよ
わが愛するきやりごいとあんなら貞固しうごうんづね
よまげみく主のわざ汝つとめと。その主よあをそなんぢら
がなんどころに勞のむなうらざる汝あぢああり
第十六章 聖徒はあよ金をいぢらうよついつのハガラテヤの
けくくわいよわが命せしうらう、あんならもあこなふべし

二 一週ひとまわしのちどめの日ひごとよなんぢらお終おしまくその得とくところ
 の利りよきさぐひよく終おしまを家いえよたくまへあけ。これわがいの
 るときちどめく捐たまことならん。めたり三 われいさらば書かき
 我われなんぢらへえらぶところの人ひとよいさへなんぢらの恵あま我
 エルサレムエルサレムよたづさへーむべー四 もーわれも往ゆべーいられら
 われと世よもにゆくべー五 我われマケドニヤマケドニヤ我われ中ちゆう居いらんといまは
 マケドニヤ我われとゆるるとき雨あま降ふいといまは六 なんぢらとともよと
 どまらん。あつひをなんぢらと冬ふゆ我われはどくことあるべー。あ
 くくなんぢらへ我われをよがゆくところよ送かへんこと我われ終おしまをむ
 七、 いま途みち間まなんぢら我われみんこと我われ終おしまがり主しゅよーわれよ

許ゆるばあばらくなんぢらともよむらんこと我われ望のぞみハこれペン
 テコステまぐエペソエペソよざらん九 その廣ひろうのそらき我われなれぬ
 門かどひらきそそぐまへ十 あり。まゝ敵あだものおやなればなまの
 十、 テモテもーいつらばなんぢら慎おそくうれせあきおそまへ
 とそろなくなんぢらのうちよ居いよ。そのうれもわがで
 とく主しゅのつとえをほとむるものなればあり十一 このゆゑま
 なんぢらうれ我われ藐あは視しくとあく平安やすみよおくまゝわかもとよ
 きたらしめよ我われうれかあうれ兄弟あなとちと中ちゆうもよきこと我
 きたらばなま十二 きやうごいアホロよつりくハ兄弟あなたちととも
 よのせかなんぢらよいらんことをられ大おほまはくむれど

われ更さらしりまゆくこと我われ給たまはりびされと便時よきときあらばゆく
べー十三 ちんぢらあやう 徹醒あやうああくく志んしんううりりよよちちくく丈夫どうぶのごと
くつくつのれ十四 ちんぢらちんぢらのああとなふとなふところところみな愛あひせももお
こなふべー十五 兄弟きょうだいをステパナステパナの家いへのちアカヤアカヤのさド
めは果みありありままくくうれうれららかかせせいといとのことことは身み我われゆゆぐぐねねつ
ううふるふるちんぢらちんぢらががああるるところところなりなり 十六 くれくれ勸すすちんぢらちんぢらも
ああくくははごごときときももののおおよよびびこれこれととややももはは勞つとむるるはははは服かせせを
十七 われわれステパナステパナとポルトナポルトナとアカイコアカイコののききここららるるははよろよろここぶぶ。これ
ちんぢらちんぢらはは缺かつつとところころ我われおおぎぎななへへばばありあり 十六 われわれららわわがが心こころと
ちんぢらちんぢらののこころろ我われたたくくささめめこころろ。このゆゆゑゑははちんぢらちんぢらわわくくの

ごときも我われおもんおもんにべー十九 アジヤアジヤの諸教會しよきうかいちんぢらちんぢらよよや
ははきき我われ問とアアククララととププリリススキキララ おおよよびびその家いへののううららくくわわいい主しゅ
はあはあううくくちんぢらちんぢらははねねんんこころろよよ安やすんんととふふ 二十 申まをべてべての兄弟きょうだい
ちんぢらちんぢらよよややははききちちととああちんぢらちんぢらききよよきき接吻くちふ我われももててここのの
ひひよよややははきき我われととんん 二十一 我われパウロパウロててづづかかららああんんぢらぢらよよややははきき
我われちちふふ 三十二 主しゅははひとひと主しゅののこころろキキリリスストト 我われああいいせせががれればばちちらら
ちちららべべー三十三 主しゅききここららんん 三十三 ちちののううららくくのの主しゅののこころろキキリリスストト 乃ゆ恩めぐみあ
んんぢらぢらととももよよああれれ 三十四 ころころがが愛あひままべべてて耶や穌そももををるるちんぢらちんぢら
ととももよよああるる 祈いのちりりアアーーメメン

~
~

印藩湖南

神野里寓

小那木栄俊



95-91185

Handwritten markings at the bottom right corner, possibly including the number '114' and other characters.

